

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

| 学校名        | 埼玉県立常盤高等学校   |   | Cグループ |
|------------|--|---|-------|
| 項目         | 調査の観点  | 取組状況に関する所見  |       |
| 目指す学校像     | 目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。                    | 県内唯一の看護師養成専門高等学校として、目指す方向が示されている学校像である。学校の置かれた状況や課題を的確に把握した上で、学校の趣旨や特性を踏まえた適切かつ明瞭なものとなっている。   |       |
| 重点目標       | 学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。 | 学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。目指す学校像の実現に向けて掲げられた学校像と重点目標との連鎖を更に意識して中期的な視点から目標を設定することが期待される。  |       |
| 重点目標達成への取組 | 重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。                   | 分掌・学年等が連携しながら、目標達成を目指す体制となっている。「重点目標、評価項目、具体的方策」の連鎖がやや不十分であるので、学校自己評価システムが十分機能するように更に工夫していただきたい。  |       |
|            | 方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。                           | スーパープロフェッショナルハイスクール事業におけるプロジェクト学習を全校的な取組とするなど様々な方策が実施され、具体的な成果も上がっている。方策や評価指標がやや抽象的であるので、具体的な方策を策定し、教職員間でその達成イメージを共有できるような分かりやすい指標を設定することが望まれる。 |       |
|            | 校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。        | 校長が学校の現状を踏まえた学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深め、課題の解決に向けて、学校全体として更に組織的に取り組むことが期待される。  |       |
|            | 学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。        | 生徒・保護者を対象としたアンケートなどを実施し、学校自己評価のための情報が収集されている。学校自己評価システムを有効に活用し、前年度の課題を次年度の目標・方策に具体的に生かせるように、更にPDCAサイクルを回していただきたい。                               |       |
| 特記事項       |  |   |       |